

いざ、地域決勝大会へ

Machida Dream まちだドリーム

写真提供/安孫子卓郎氏
(写真は7月のザスパ草津戦)



格上チームに連勝!

10月5日、群馬県伊勢崎市の「サンデンフットボールパーク」において、J2のザスパ草津とFC町田ゼルビアの練習試合が行われ、45分3セツトマッチで合計5対1と圧勝。控えメンバー中心のチームとは言え、プロチームを相手に順調な仕上がりを証明した。
先週28日のJFL2位の栃木FCとの練習試合に続く連勝で、格上であるJリーグチームとの5試合、JFLチームとの1試合の合計7試合の通算成績は3勝3敗となった。

ゼルビア ザスパ草津(J2) と練習試合で圧勝

格上と3勝3敗に!

前半からゼルビアが圧倒

立ち上がりは両チームともボールを失わないような慎重なパス回し。お互いに申し合わせたように中盤をショートパスで繋いでゆく展開だがトップの選手へいい形でボールが入るケースはゼルビアが優勢という状況で試合を進める。

7分、浦原が自陣でドリブルしてくる相手選手へアタック。フアルをもらい素早くハーフウェイライン近く左サイドにいた勝又へパス。いい形でボールを受けた勝又がそのまま左サイドをドリブル。詰めてきた相手DFを一瞬のスリッドでかわしペナルティエリアまで持ち込み角度の無い位置からシュート。ボールはGKの拒否をすめずゴールのネットへ吸い込まれる。格上相手にゼルビアが先取点。

立ち上がりの得点で勢いに乗るゼルビア。17分右サイドでボールをキープした酒井からペナルティエリア内で待つ勝又へ約30mのピンポイントパス。中央やや右でボールを受けた勝又は胸でワントラップしたボールを右足でボレーシュート。2点目のゴール。

山腰のダイレクトシュートで追加点

二本目に入っても展開は変わらずゼルビアペース。ザスパは中盤までは繋いでも効果的なパスを前線へ送ることが出来ず攻めの形を作れない。7分左サイドザスパ陣内深い位置で津田がドリブル。ゴールライン際から中央へ折り返す。ゴールは正面でフリーの山腰が左足でダイレクトシュート。GKも反応できずはやくも4対0。

無失点ゲームを意識してきた23分。ザスパの攻撃で今日初めての効果的なパスが前線へ出される。左サイドフリーで受けたザスパのトップは縦にドリブルで持ち込み中央へクロス。これを中央やや奥で受けたザスパの選手は丁寧にトラップし素早く右足でシュート。ゴールイン。二本目の45分を終え4対1。

加賀山が得意のヘッド

二本目に入り(一本目の途中からだが)徐々に選手を入れ替えていく両チーム。選手を入れ替えても互いのサッカー、展開は変わらずゲームは進んでゆく。15分までのシュートはゼルビア3本、ザスパ4本。二本目に入り少しづつミスが始めてきたゼルビアにザスパも攻撃の形を作り始める。しかしゼルビアも気持ちで負けない気迫あるプレーでザスパに決定機を作らせない。この後20分間両チームシュート0の展開で二本目は0-0かと思われた38分。ザスパ陣内左サイドでFKを得たゼルビア。キッカー野村の右足から中央へ正確なボールが送られる。DFとGKの間に入ってきたボールを加賀山が競り勝ちヘッドシュートが決まり5対1。

最終相手に自由にサッカーをさせず、自分達の意図するゲームを進められたゼルビア。戸塚監督が普段口にする二人のゲームを展開できたゲームであった。



JFL2位の栃木に快勝!!

格上相手に内容も圧倒



9月28日(日)、栃木県・河内総合運動公園陸上競技場において、FC町田ゼルビアvs栃木SCの練習試合が行われた。栃木SCは現在JFLで第2位の全員がプロ選手でJリーグ昇格間違いのないチームとの練習試合として、また栃木SCの監督の柱谷幸一さんと戸塚監督含めゼルビア関係者とは旧知の仲の旧友対決として注目の一戦となりました。

蒲原が先制弾

丁寧に中盤からボールを繋いでゆくゼルビア。早めにトップへボールを集め最短でゴールを目指す栃木。両チームともに自らのサッカーを展開し、立ち上がりは互角だが試合が進むにつれ、徐々にではあるがゼルビアの連動した攻撃が栃木陣内深くまで攻め込む展開が増えてくる。

ゼルビアが優位に進める前半20分。中央ペナルティエリア手前の混戦で酒井がボールをキープ。すかさずペナルティエリア内左サイドにいる蒲原へスルーパス。相手の裏で受けた蒲原は詰めてきたDFを切り返してシュート。切り替えされたDFが足も出せず、GKも反応できない素早いシュートがゴールを揺らし先制。展開力、キレ、運動性で栃木を凌ぐプレーを見せ、前半はゼルビアペースで1対0で折り返す。

栃木のツートップを完封

後半に入っても展開は変わらず、ゼルビアの選手も余裕を持ってゲームを進めていく。対する栃木も局面では身体を張ったディフェンスでゼルビアに決定機を作らせない。栃木の選手は皆身体の軸がブレず安定しており、体を使った局面でのディフェンスでは栃木に分があった。

攻撃面で決定機を作れないゼルビアもディフェンスでは栃木のツートップへ効果的なボールを出させない前線から中盤のプレスが機能。またボールが入っても自由にさせない寄せで栃木のツートップには前後半を通じてチャンスを作らせないままゲームは進み後半は0対0。格上のJFL2位の栃木SCを相手に完封の1対0の勝利。

ゼルビアがこのゲームで見たバフォーアンスは相手チームのレベルカテゴリーに関係なく「自分達のサッカーを実践すれば勝てる」を再認識させてくれたゲームであった。

9月21日(日)にMM21マリノスタウンにて行われた横浜F・マリノスとのトレーニングマッチは1-4で敗退、しかしJ1の名門マリノスのゴールを脅かす場面も多々見られ選手は手応えを掴んだ。



前半開始からゼルビアの細かく繋ぐサッカーとグランドを広く使い長いパスからゴールへ迫るマリノスのサッカーそれぞれ特徴ある展開をみせる。ゼルビアは山崎と最近センターバックにコンバートされた中川を中心にマリノスの攻撃を跳ね返す。マリノスの攻撃にも慣れ『さあゼルビアの時間だ』と勝つ。蒲原が個人技からマリノスゴールへ、



ゼルビアJ1を本気にさせる

マリノス主将に決勝被弾!!

ノスDFを翻弄。何度もマリノスゴールに襲いかかるが、マリノス必死の守備になかなか得点が奪えない。

10分間ほぼゼルビアの攻撃が続く中、左サイドバックの杉本からマリノスDF2人を抜く素晴らしいスルーパスが出る。そのボールに勝つが俊足で追いつき左サイドをえけると後ろからフオローに入った蒲原にボールを預ける。蒲原はセンターでノーマークの柳崎にパス、柳崎がダイレクトで蹴り込み同点とする。マリノスのサポーターからは『マリノスしっかりしろっ!』と激が飛び、マリノスのホームグラウンドは異様な雰囲気になります。直後にゼルビアは山口、雑賀を投入し更なる追加点と守備のテコ入れをする。勢いに乗るゼルビアと必死になるマリノスとで試合は白熱。マリノスの選手から激しいタックルも飛び出すなど、『J1』が本気になる。

真剣勝負が続いた後半10分、一瞬空いたスペースからマリノスのNO.6河合選手に30mのロングシュートを決められる。Jリーグ出場100試合を超え2008シーズンマリノスの主将を務める男がこれぞJリーグというシュートを決める。これでマリノスが完全に生き返る。後半19分、29分とゼルビアの中盤のボール回しを奪うと鋭いカウンターから立て続けに得点を許し終わって見れば1-4というスコア。こそという時に決めるプロの力を見せつけられたが、Jクラブを圧倒する時間もあり選手は確かな手応えをつかむことができた。マリノス関係者から『ゼルビアはJクラブを相手にしても常に前を向いて攻撃してくる。このチームは伸びるね。マリノスも練習試合を久々に本気で闘うことができた』と謝辞をいだくなど、Jのピッチでマリノスとゼルビアが闘う姿を想像させるいい内容の試合。J1チームにも結果を出して地域決勝を勝ち抜けゼルビア!

夢おこし まちおこし 町田チャレンジ

イレブン
ゼルビア2011年宣言

2011年、私たちはJリーグ昇格を実現します。
まちに元気、子どもに夢と希望を運びます。



FC Machida Zelvian